

《醒世姻縁傳》の“情管”と 現代方言の“情管”に関する考察

石 亮 亮

- 1、先行研究
- 2、問題の所在
- 3、現代方言への継承
- 4、逆序語“管情”との比較
- 5、結語

1、先行研究

“情管”に関する先行研究は、その多くが“情管”の意味に関する内容である。管見では、“情管”に関する先行研究には、以下のようなものがある。

1) 陳2015

陳2015は《聊齋俚曲集》(略称《聊》、下同)の“情管”を“必定、肯定”(きっと)とするが、現代方言の“情管”を“儘管”(思う存分に)にする。“情管”は歴史の流れで言葉自体は現在まで残っているものの、意義が完全に変わったと主張する。意味だけ分析するが使用範囲を全体的に研究していない。本稿は詳しく述べる。

2) 閔2013

閔2013は《西遊記》(略称《西》、下同)、《水滸傳》(略称《水》、下同)、《金瓶梅詞話》(略称《金》、下同)、《三国演義》(略称《三》、下同)、《歧路燈》(略称《歧》、下同)、《野叟曝言》(略称《野》、下同)、《儒林外史》(略称《儒》、下同)、《醒世姻縁傳》(略称《醒》、下同)、《紅樓夢》(略称《紅》、下同)、《兒女英雄傳》(略称《兒》、下同)、《官場現形記》(略称《官》、下同)、《老殘遊記》(略称《老》、下同)といった近世時代における12部の小説を調査したものである。それによれば、“情管”は《醒》(65箇所)と《野》(3箇所)にしか現れない。《醒》には用例が数多い。閔2013は例文だけを挙がるが、“情管”の《醒》における全使用状況に言及していない。本稿は《醒》を資料とし、従来あまり盛んに論じられてこなかった“情管”を中心に論じて、言語の歴史的変遷を把握し、近世白話小説の言語特徴、文献整理、辞書の編纂、言語教育などにも役に立つ。

2、問題の所在

《醒》は清初期、北方漢語の代表的な白話小説であり、本稿は《醒》の“情管”を取り上げて考察する。近世語には“情管”が一般的に“肯定;管保”(きっと)の意味で解釈される(例①参照、訳は筆者)。

以下、同じ)。しかしながら、現代方言の“情管”は“儘管”(思う存分にする)の意味で知られている(例②参照)。例②は陳2015から引用する。

①你且放寬了心，等我替你算計，情管也算計不差甚麼。(醒83.14a.10)¹⁾

訳：まずは気を楽しになさることです。あなたのために考えてさしあげましょう。きっと悪いようにはいたしませんよ。

②出了問題我包着，你情管大膽地去。(山東濰坊話)

訳：問題があれば私は解決するから、(心配しないで)勇気を出してやってみればいい。

以上の例から“情管”は“肯定;管保”(きっと)の意味から“儘管”(思う存分にする)に変わって、言葉自体は現在まで残っているが、意味が著しく変わったとわかる。そこで出た疑問は近世語と現代方言の“情管”の使用状況(機能)は変わったか、同じ所があるか。そして、“情管”を考察したところ、現代方言の“情管”は“儘管”(思う存分にする)の意味だけではなくて、筆者の故郷連雲港市の贛榆県の方言²⁾には“情管”は“一直;總是;老是”(いつも)も表す(例③参照³⁾)。これは現代方言“情管”に対して新たな意味項目の補充になる。

③你怎情管撇人的。

訳：何でずっと悪口を言うの。

以上の問題点を纏めると、以下ようになる。

- 1) “情管”の《醒》における全使用状況は一体何なのか。
- 2) 近世語と現代方言の“情管”の使用状況(機能)は変わったか、同じ所があるか。
- 3) 明代から清末期における“情管”の歴史変遷にも言及したい。

本研究は現代方言と《醒》の“情管”の用法と意味について分析を行い、さらに、ニュアンスでの使い分けについて考察を進める。そして、“情管”は《醒》の時代と現代においてどのように使用されるのかを明らかにする。

3、現代方言への継承

現代方言と近世語の“情管”を明らかにするため、《白話小说语言词典》(略称《白》、下同)、《中国語大辞典》(略称《中》、下同)、《汉语方言大词典》(略称《汉》、下同)で調べた結果、次のようになる。

○白維国，《白》，商务印书馆，2011年

情管：肯定(きっと);管保(保証する)。

○大東文化大学中国語大辞典編纂室(編集)《中》，角川書店，1994年

情管：①㊦おそらく、たいてい(恐怕;大概)。②きっと(肯定)。=“管情”

○许宝华、宮田一郎、《汉》(全5册)、中华书局、1996年

情管：[動]保証；管保(保証する；きっと)。冀魯官話。山東省淄博。清・蒲松齡《聊・牆頭記》第二回：你既飽了，且找个避風去處，且慢慢歸家。～我着他兩個爭着事奉你。(訳：もうお腹がいっぱいですから、風を避ける所を探して、ゆっくり帰ってください。その二人に競って君に仕えるように言いつけることを保証します。)《醒》第十八回：晁爺你不信，只叫大官替唐老爺做上女婿，～待不的兩日就是个知州。(訳：お信じにならないのでしたら、大舎さまを唐さまの婿にしてみてください。きっと二日足らずで知州になれることでしょう。)

上記の解釈には“情管”の意味をまとめると、以下の通りである。

近世語の場合

情管：Ⅰ[副]おそらく、たいてい(恐怕；大概)。Ⅱ[副]きっと(肯定)。Ⅲ[動]保証する(保証)。
= “管情”

現代方言の場合

情管：Ⅰ保証する(保証)。Ⅱきっと(肯定)。

3.1、《醒》の“情管”について

《醒》には65回出現する“情管”を考察したところ、《醒》の“情管”の特徴は前後文脈が相手を勧誘する場合(主に“思維上の誘導”の場合)に用いられ(表一参照)、口語的で語氣副詞として確実性を表すことである。

表一

前後文脈が相手を勧誘する場合		
	行為上の誘導 ⁴⁾	思維上の誘導 ⁴⁾
回数	17 / 65	48 / 65

《醒》の“情管”は“行為上の誘導”を17例で使われている。

④我打和包雞子，你起來吃幾個，情管就好了。(醒38.12a.10)

訳：目玉焼きを作ってさしあげます。起きて幾つか食べれば、きっと良くなりますよ。

例④について話し手は聞き手に目玉焼きを食べさせてもらう。動作は“吃”(食べること)である。“行為上の誘導”はこの動作をしてもらうことである。

⑤丫頭另取了一本萬事不求人書。墊着看了脈，說道：這病比昨日減動六七分了。今日再一帖下去，情管都好了。(醒2.11a.7)

訳：女中は今度は『萬事不求人』という本をとってきた。それを敷き、脈を診ると、楊古月は言った。「病気は、昨日に比べると六七割良くなりました。今日、もう一服飲めば、きっとよくなりますよ。」

例⑤について楊古月は晁大舎の病気を診療した。もう一服飲んで病気がよくなるって相手にこうさせたい、つまり一服飲むこと、この主張を相手に理解してもらうため、“情管”を用いる。動作は“一帖下去”（一服飲むこと）である。“行為上の誘導”はこの動作をしてもらうことである。

⑥珍哥又道：…路上冒了風寒。我叫人做些酸辣湯，你吃他兩碗，熱炕上發身汗出，情管就好了。（醒2.1b.3）

訳：珍哥はまた言った。「…たぶん道で寒い風に当たられたのでしょうか。酸辣湯を作らせますから、二碗飲まれて、暖かい炕（オンドル）の上で汗を出せば、きっとすぐに良くなりますよ。」

例⑥について珍哥は晁大舎の病気の治療方法については酸辣湯を作らせ二碗飲まれて汗を出せば、病気が治るという提案をした。相手に納得できるように“情管”を用いる。動作は“吃”（飲むこと）である。“行為上の誘導”はこの動作をしてもらうことである。

《醒》は“思維上の誘導”の“情管”を48例で使用している。

①童奶奶道：雖這們說，你焦的中甚用。焦出病來，才是苦惱哩。車到沒惡路，天老爺自然給人鋪排。既是叫偌往那們遠去，自然送到偌地頭。你且放寬了心，等我替你算計，情管也算計不差甚麼。（醒83.14a.10）

訳：童奶奶は言った。

「焦っても仕方ありませんよ。病気になったりしたら、大変ですからね。車で行かれば悪路はありません。神様がきつとうまく行くように計らってくれますよ。遠くへ行かれるのですから、私たちの土地の端まで往きつけますよ。まずは気を楽になさることです。あなたのために考えてさしあげましょう。きっと大丈夫ですよ。」

例①についてまずこの場面は勧誘文脈である。童奶奶は狄希陳の困ったことを解消するために相手に安心させ、まずは気を楽になさることです。あなたのために考えてさしあげましょう。きっと大丈夫ですよ、と相手にこう思わせるために、自分の考えを理解してもらうために、“情管”を用い、相手を“思維上の誘導”する。

⑦晁老道：胡說。知府那有使銀子上的哩。媒婆道：只怕是我聽錯了，說是上个知州。晁老道：知州也沒有使銀子上的。媒婆道：知州從來使銀子上的。晁爺你不信，只叫大官人替唐老爺做上女婿，情管待不的兩日就是个知州。（醒18.3b.1）

訳：晁老人は言った。

「馬鹿をいえ。銀子を使っても、知府になれるはずがあるまい。」

媒婆は言った。

「私の聞きまちがいでした。知州にすると行っていました。」

晁老人は言った。

「知州だって銀子を使ってなれるものではないぞ。」

媒婆は言った。

「知府は銀子を使ってなることはできないでしょうが、知州は昔から銀子を使ってなるものです。お信じになれないなら、若旦那さんを唐さまのお婿さんになさってごらん下さい。きっと二日足らずで知州になりますよ。」

例⑦について媒婆は銀子を使って知州になれることを晁老人に信じてもらう。媒婆は自分の意志（銀子を使って知州になれること）を相手に理解してもらうため、観点を明確にするように“情管”を用い、私を信じておくれと強調し伝え、相手を“思維上の誘導”する。勧誘文脈で、強い推測を通して自分の話す目的に達する。

⑧大家都商量説：宅裡請俗，却是為甚麼…

晁無晏道：…是那幾畝墳地，叫俗眾人攤糧…

晁思才説：不是為這個…

晁思才老婆跑將出來說道：你們不消胡猜亂猜的，情管是為你昨日賣了墳上的兩科柏樹，他知道了，叫了眾人去數落哩。（醒22.3b.6）

訳：皆は相談して言った。「奥さんが俺たちを呼んだのは、何用かな…」

晁無晏は言った。「…あの数畝の墓地で、俺たちに分担させるつもりなんだ。」

晁思才は言った。「そうではないよ…」

晁思才の女房が駆け出して言った。「勝手な想像をするはやめてくれ。きっと昨日あんたがこの前墓の二本の檜を売ったのを奥さんが知って、皆を呼んであんた責めるつもりなんだよ。」

例⑧について奥さんが人々を呼んで晁思才の家に集める理由について皆の意見が様々であるが、晁思才の女房は人々に納得してもらうために自分の理由を強く出した。相手に自分の主張通り（勝手な想像をやめよ、皆を呼んで来る理由はこの前墓の二本の檜を売ったので奥さんは晁思才を責めるつもりであること）に思わせるために“情管”を用い、強い推測を通して、相手を自分側に招く。相手を“思維上の誘導”する。

そして、“情管”は文章の中で以下のように存在する（表二参照）。

1) 述語動詞の前に置き、述語成分を修飾する。

⑨晁無晏道：我一猜一个着，再沒有二話，情管是那幾畝墳地，叫俗眾人攤糧。（醒18.3a.10）

訳：晁無晏は言った。「俺にはわかっているよ、はずれっこなした。きっとあの数畝の墓地で、俺たちに穀物を干させようというのだろう。」

⑩狄婆子説：那漢子我没看真，情管是个膿包。好漢子也依老婆降發麼。（醒41.2b.3）

訳：狄夫人は言った。「私はその男を見てなかったけどね。きっと意ダメ男だよ。大の男が女房に侮辱されてじっとしているはずがないからね。」

2) 文の前に置き、文全体を修飾する。

①唐氏道：情管你那輩子就是這們个老婆。(醒19.5a.5)

訳：唐氏は言った。「きっとあなたは前世ではそんな女房だったのでしょうかよ。」

表二

《醒》の“情管”		
	述語動詞の前に置き、述語成分を修飾する	文の前に置き、文全体を修飾する
回数	56 / 65	9 / 65

また、《醒》には“情管”の動詞の「保証する」の意味の用例がない。

以上は《醒》には65例出現する“情管”の使用状況であるが、山東方言に多く含まれる《聊》の“情管”を調べると、“儘管”(思う存分に)の意味もある(例⑫参照)。この点は《醒》の“情管”とは異なる。《白》の“情管”に対して新たな意味項目の補充になると考えられる。

⑫咱倆飲酒，添上個人才好。公子雲娘子差矣。人千裏來，恨不能兩個人弄成一個，怎麼還容的半個。

…江城云：情管添上此人，官人也未必嫌多。(聊.1261.8)

訳：「私たちはお酒を飲むにはもう一人増やしたほうがいい。」公子は言った。「違う。君が遠くから会いに来てくれて、君と一つにできないのを惜しんでいるから、もう一人増やすのは受け入れられない。…江城は言った。「安心してこの人を増やしてください。君はこの人が来ても多く思わないね。」

3. 2、近世語と現代方言の“情管”の同じ使用状況

現代方言の“情管”の意味はどうなるか。

陳2015は山東濰坊方言には“必定；肯定”を表す時、“情管”を使わずに一般的“保準”を使うようになったとする。“情管”は“儘管去做某事”(思う存分に)の意味のみとして方言に残り、一般的に“勸勉”(励ます)のニュアンスを表すとも言及し、陳2015から例⑬を挙る。

⑬家裏還有一大堆菜呢，你情管吃。(山東濰坊話)(勸勉義)一相手を励ますことを指す。

訳：部屋に野菜がまだいっぱいあるので、食べたいと思ったらどどん食べてください。

以上の例から見れば、現代方言の“情管”は“儘管去做某事”(思う存分に)の意味で相手を勧誘し、“勸勉”(励ます)のニュアンスを表す。それでは、近世語の“情管”は同じような機能があるか。

近世語の“情管”は前後文脈が相手を勧誘する場合に用いられ、語気副詞として相手に安心し行動をさせる強い主張も表す。例①の“情管”はそれである。場合によって、確かにそうであるという強い主張を聞き手に納得してもらって必ず目的が達成できる気持ちを伝え、相手を励まし、心配なく勇

気を出して行動をさせることもある。つまり前後の文脈が相手を勧誘する場合に使われ、“勸勉”（励ます）のニュアンスも強調する。この機能は現代方言の“情管”と同じと思われる。目的は相手を勧誘し、相手に安心させ、安心感を与え、物事が順調に進むことである。例⑥と例④を見よう。

⑥路上冒了風寒。我叫人做些酸辣湯，你吃他兩碗，熱炕上發身汗出，情管就好了。（醒2.1b.3）

訳：たぶん道で寒い風に当たられたのでしょうか。酸辣湯を作らせますから、二碗飲まれて、暖かい炕（オンドル）の上で汗を出せば、きっとすぐに良くなりますよ。

④我打和包雞子，你起來吃幾個，情管就好了。（醒38.12a.10）

訳：目玉焼きを作ってさしあげます。起きて幾つか食べれば、きっと良くなりますよ。

例⑥について、相手を勧誘する場合に用いられ、聞き手は自分の身体の具合が悪くて心配になるが、話し手は心配を払いのけるために、酸辣湯を作らせ、二碗飲まれ、暖かい炕（オンドル）の上で汗を出せば病気が治せるとのアドバイスをした。相手をうまく勧誘するように、相手に安心感を与え、“情管”を使って、その病気は大丈夫ですよ、すぐ治るよ、安心してねと強調し伝え、相手から自分の提案を受け入れてもらおうと前向きな姿勢で相手を説得する。例④の場合、“情管就好了”（きっとすぐに良くなりますよ）の後ろに“你就放心吧”（心配しないでください）が省略される。なぜ省略されるのか、“情管”はその代わりにこの語義効果を行使することにかかわると推測する。この点についての研究を今後行いたい。

例④は例⑥と同じように、相手を勧誘する場合に用いられ、“情管”を用いることで相手から同意を得たいという気持ちをもっと強まる。

次に《醒》の例①と例⑭はそれである。

①你且放寬了心，等我替你算計，情管也算計不差甚麼。（醒83.14a.10）

訳：まずは気を楽になさることで。あなたのために考えてさしあげましょう。きっと悪いようにはいたしませんよ。

⑭你放心，做成了，情管叫你二位暖和。（醒75.12b.6）

訳：安心してくれ。うまくいけば、二人、この冬はきっと暖かく過ごせるよ。

例①と例⑭も前後文脈が相手を勧誘する場合に使用され、相手を説得できるように、“情管”を使って相手に安心させるという感じが更に強くなる。

前節で《醒》の“情管”の機能は前後文脈が相手を勧誘する場合に用いられ、相手を“思維上の誘導”することもあり、“行為上の誘導”することもあると述べた。現代方言の“情管”は同じような機能を持っている。

機能一：思維上の誘導

現代方言の“情管”も前後文脈が相手を勧誘する場合に用いられ、相手を“思維上の誘導”する。例⑮は陳2015から引用する。

⑮有我在，孩子不會出啥事的，你情管放心。(山東濰坊話)
 訳：私がいるから子供は大丈夫だよ。安心してください。

例⑮は勧誘文脈である。話し手は聞き手が子供の安全を心配することを解消するために“有我在”(私がそばにいる)と言って相手に安心させる。きっと大丈夫だよ、と相手にこう思わせるために、自分の考えを認めてもらうために、“情管”を用い、私を信じておくれと強調し伝え、相手を“思慮上の誘導”する。

機能二：行為上の誘導

現代方言の“情管”も前後文脈が相手を勧誘する場合に用いられ、相手を“行為上の誘導”する。例⑯は贛榆方言で、例⑰は閩2013から引用する。

⑯外頭大雪就不要去上課了，今天就情管待在家裏學習也沒事。
 訳：外はひどい雪だから学校をやめよ。今日はちゃんと部屋で勉強しても大丈夫だよ。

例⑯について、外は雪だから出かけるのは不便のため、学校をやめることになる。相手に自分の主張を受け入れてもらうために、部屋で勉強をするという提案をした。相手に納得できるように“情管”を用い、安心しなさいとの言外の意味が含まれる。動作は“待在家裏學習不要去上課”である。“行為上の誘導”はこの動作をしてもらうことである。

⑰你情管說了，我聽住哩！

訳：どんどん言ってください。私はちゃんと聞きますから。

例⑰について相手の気がかりのないようにするため、「(困る事を)どんどん言ってください」と伝える。自分の主張を相手に理解してもらうため、“情管”を用いる。動作は“説”(言う)である。“行為上の誘導”はこの動作をしてもらうことである。

以上のように近世語と現代方言の“情管”の機能はあまり変わらず、つまり両方は前後文脈が相手を勧誘する場合に用いられ、相手を“思慮上の誘導”することもでき、“行為上の誘導”することもできるという機能が同じと思われる。そして、“情管”は確実性を表すが、“情管”を用い、その確実性を強調することで、自分の意志通りにやってもらうという勧誘語気をもっと強まるという点も同じと思われる。

3.3、贛榆方言の“情管”について

現代方言に“情管”のニュアンスを簡単に言えば、“勸勉”(励ます)の積極的なニュアンスはあるが、“勸誡”(戒める)の消極的なニュアンスはないだろう。

閩2013は河南省南陽方言の“情管”について一般的に“勸勉”(励ます)のニュアンスとしても広く使われるが、“勸誡”(戒める)のニュアンスがないとも指摘している。そして、閩2013は次の例を

挙げている。

⑱你情管鬧吧。

訳：盛り上がって騒ぎましょう。

○鬧鬧興許問題就解決了。(勸勉義)

訳：騒ぎを起こしたら問題が解決することになるのかもしれませんが。

×這事兒他死活也不管。(勸誠義)

訳：いい加減にしてください。このようにいたずらして大変なことに遭ったら、私に頼まないでください。

○：適格 ×：不適格

閩2013でも、陳2015でも“情管”は明らかに積極的な意味で用いられる。

しかしながら、筆者の故郷：連雲港市贛榆県の方言には“情管”は副詞として“儘管”(思う存分にする)の“勸勉”(励ます)のニュアンスを表す他に、“一直；總是；老是”(いつも)の“勸誠”(戒める)のニュアンスも表す。この点は“情管”の使用状況について新たな補充になるだろう。なぜ“一直；總是；老是”(いつも)が“勸誠”(戒める)のニュアンスになるか、例を挙げて説明しよう。

⑲你情管耍吧。

現代共通語：你就這樣一直耍吧。

訳：おまえはずっとこのように遊び放題にしていなさい。

言外の意味：你不務正事，就知道天天玩，我也不管你了，隨你去吧。

訳：おまえ宿題もやらずに遊びばかりしていちゃだめだ。成績が悪くなったら、自分の責任だよ。

⑳你怎情管吃的。

現代共通語：你怎麼老是吃啊。

訳：何でそんなに食べるの。

言外の意味：你不能這樣吃，要註意分寸。

訳：なるべくそんなにいっぱい食べないように控えてください。

㉑你怎情管撒人的。

現代共通語：你怎麼一直罵人啊。

訳：何でずっと悪口を言うの。

言外の意味：沒素質，滿嘴胡言亂語。

訳：悪口を言うなんて、教養がない人間だ。注意してください。

㉒你情管鬧吧。

現代共通語：你就這樣一直瞎鬧吧。

訳：お前はずっといたずらをするね。

言外の意味：這事兒死活也不會管你。

訳：いい加減にしてください。このようにいたずらして大変なことに遭っても、私は助けてあげないよ。

例⑱について、“你情管耍吧”（おまえはずっとこのように遊び放題にしていなさい）の言外の意味：おまえ宿題もやらずに遊びばかりしていちゃだめだ。成績が悪くなったら、自分の責任だよ。相手にずっと遊ぶことをやめさせる。“情管”が無かったら、“你要吧”（遊んでください）になる。この場合、相手の行動を警告するかどうかのニュアンスはわからない。つまり、相手に遊ぶことを厳しく注意させ、やめさせるニュアンスを把握できない。“情管”を使用すると、相手を厳しく戒め、毎日遊んだら駄目よ、ちゃんと勉強しなさいとの忠告を心に留めてほしい気持ちが強くなる。例⑳、例㉑、㉒は例⑱と同じように、“情管”を用いると、相手への“勸誡”（戒める）のニュアンスが強くなる。

上述の説明から、贛榆方言では“情管”を使うと、相手のやり方に反感を持ち、相手を嫌うことになったり、相手にやめるよう忠告したり、警告する意味も含まれる。ここから、贛榆方言の“情管”の使用範囲が更に広いことが分かる。

贛榆方言の“情管”は他の方言の“情管”との差異を明瞭にするため、表三の通りに示しておく。

表三

現代方言	“情管”の意味とニュアンス	
	“儘管”（思う存分にする）－“勸勉義”（励ます）	“老是；綫是；一直”（いつも）－“勸誡義”（戒める）
贛榆方言（膠遼官話）	○	○
淄博方言（冀魯官話）	×	×
南陽方言（中原官話）	○	×
濰坊方言（齊魯官話）	○	×

○：適格 ×：不適格

そして、現代方言の“情管”の意味とニュアンスを分かりやすく以下の表四のようにまとめる。

表四

現代方言	“情管”の意味とニュアンス
贛榆方言（膠遼官話）	“儘管”（思う存分にする）－“勸勉義”（励ます）
	“老是；綫是；一直”（いつも）－“勸誡義”（戒める）
淄博方言（冀魯官話）	“保證；保管”（保証する）←《漢》により
南陽方言（中原官話）	“儘管”（思う存分にする）－“勸勉義”（励ます）
濰坊方言（齊魯官話）	“儘管”（思う存分にする）－“勸勉義”（励ます）

実は単音節語“情”を分析すると、副詞として“儘管”（思う存分にする）の意味もある。その意味の“情”は現代方言に用いられ、“勸誡”（戒める）の消極的なニュアンスもある。例㉓は陳2015から、例㉔は閔2013から引用した。

㉓你情不聽話，等你爸爸來家看他怎麼收拾你。（山東濰坊方言）（勸誡義）－相手を戒めることを指す。

訳：話しを**ずっと**聞かないので、お父さんが来たら、お前を懲らしめるぞ。

言外の意味：你不要不聽話了，等你爸爸回家後，他會狠狠地收拾你的。

訳：お前はちゃんと話を聞いてください。聞かないと、お父さんから処罰をするよ。

㊸你**情**胡吃海喝了，看你的身體都成啥了。(新郷方言)(勸誡義) — 相手を戒めることを指す。

訳：お前、**いつも**めちゃくちゃ食べたり、飲んだりしてしまったね。ほら見て体はどう変わったのか。

言外の意味：你再不節制飲食，身體就垮了。

訳：飲食を控えてください。こうしなければ、身体は崩します。

㊹你**情**看電視，考試考不好看你怎麼辦。(贛榆方言)(勸誡義) — 相手を戒めることを指す。

訳：おまえテレビ**ばかり**見て、成績が悪くなったら、その時どうしますか。

言外の意味：你再這樣天天看電視，考試成績差了，全是自己的責任。

訳：おまえテレビばかり見ていちゃだめだ。成績が悪くなったら、自分の責任だよ。

4、逆序語“管情”との比較

近世語には“情管”のほか、逆序語“管情”もある。“管情”は“情管”と同じように現代共通語にはないものの、近世語には使われる。“情管”を深く理解するために、“管情”、“管情”を取り上げて考察する必要がある。“情管”と逆序語“管情”の違いはどこにあるか。意味や使用範囲などは同じであるかを疑問にして、次に考察を行う。

《白》、《中》、《漢》によれば、“管情”は「保証する」、「きっと、必ず」の意味になる。前節近世語の“情管”の意味を調査したところ、「保証する」、「きっと」の意味のほか、“儘管”の意味もある。そして、現代方言では、“情管”の方は意味が多い。ここから見れば、近世語でも、現代方言でも、“情管”の使用範囲は“管情”より広いと言えるだろう。“管情”と“情管”の使用範囲についての深い考察は今後の課題としたい。

近世時代の“管情”と“情管”の使用状況は一体何なのか。明代から清末期までの歴史変遷は一体何なのか。

“管情”、“情管”の使用状況を閏2013から引用し、それを時代別、方言別に整理すると以下の表五のようになる。

表五

基礎方言	明代		清代初期		清代中期			清代末期		現代	
	山東方言	河南方言	山東方言		北京	江淮方言		北京	吳方言	共通語	方言 ⁵⁾
資料	《金》	《歧》	《醒》	《聊》	《紅》	《野》	《儒》	《兒》	《官》	《葡》 ⁶⁾	
情管	0	0	65	19	0	3	0	0	0	1	
管情	32	18	2	0	1	1	0	1	0	0	

表五から見れば、“管情”は《金》に一番多く見える。“情管”は《醒》に一番多く現れる。近世語の“管情”、“情管”は一般的に冀魯官話区に使用される。劉2011は“管情”の出現時点について、元代に初めて出現したと述べた。明末清初から清代中期まで使用されるが、清の後期になると、段々用いられなくなるようだ。現代の使用状況について、“國家語委現代漢語平衡語料庫”によれば、“管情”は現代作品にあまり使用しない。“情管”はただ《葡》に話し言葉で一回だけ現れる。この例文は次のようである。

㊟永謙斩釘截鐵地说：“社長，你情管放心吧…”

訳：永謙斬ははっきり言った。「社長、安心してください。」

調べたところ、《葡》の作者李樹橋は南陽出身である。相手をうまく説服するため、南陽方言の“情管”を使用したのだろう。

5、結語

- 一、《醒》の“情管”の特徴は前後文脈が相手を勧誘する場合によく用いられ、口語的で語気副詞として確実性を表すことである。
- 二、《聊》の“情管”を調べると、“儘管”（思う存分にする）の意味もある。この点は《醒》の“情管”とは異なる。《白》の“情管”に対して新たな意味項目の補充になると考えられる。
- 三、近世語と現代方言の“情管”の意味は変わったが、機能はあまり変わらず、つまり両方は前後文脈が相手を勧誘する場合に用いられ、相手を“思維上の誘導”することもでき、“行為上の誘導”することもできるという機能が同じと思われる。そして、“情管”は確実性を表すが、“情管”を用い、その確実性を強調することで、自分の意志通りにやってもらうという勧誘語気ももっと強まるという点も同じと思われる。
- 四、連雲港市贛榆県の方言には“情管”は副詞として“儘管”（思う存分にする）の“勸勉”（励ます）のニュアンスを表す他に、“一直；總是；老是”（いつも）の“勸誡”（戒める）のニュアンスも表す。つまり、贛榆方言の“情管”の使用範囲が更に広いことが分かる。この点は“情管”の使用状況について新たな補充になるだろう。
- 五、“管情”、“情管”は明末清初から清中期まで使用されるが、清の後期になると、段々用いられなくなる。これはなぜなのか。また、“管情”はなぜ《金》に一番出るかは次の研究課題にしたい。

[注]

- 1) “醒83.14a.10”は例文の出典を指す。“醒”は《醒世姻緣傳》、“83”は《醒世姻緣傳》の83回、“14”は14ページ目、“a”は表(“b”は裏)、“10”は10行目である。
- 2) 山東濰坊方言は齊魯官話に属する。
- 3) 本稿の連雲港市の贛榆県の方言の例文が筆者は作成するものである。
- 4) 本稿の「勧誘」は自分の意見や意志を出して、相手に理解してもらい、自らの側に招く行為である。ここの「勧誘」は“行為上の誘導”と“思維上の誘導”2種類がある。“行為上の誘導”はこうしてほしい、こうしなさいってその動作をしてもらうことであるが、“思維上の誘導”はこう思ってほしい、自分の考えを理解してもらい、自らの側に招く行為である。(勧誘意思指主觀上勸説和誘導, 即自己的想法能讓對方聽得進去, 可分為行為上的誘導和思維上的誘導。行為上的誘導是希望對方這樣去做, 思維上的誘導是希望對方這麼認為。)
- 5) 贛榆方言(膠遼官話)、濰博方言(冀魯官話)、南陽方言(中原官話)、濰坊方言(齊魯官話)を指す。
- 6) 魏賢聖; 李樹橋; 涂洪徳の《葡萄山上凱歌高》の省略。《山東文學》1965年第2期 3-6

[主要参考文献]

- 白維國, 《白話小說語言詞典》, 商務印書館, 2011年。
- 許寶華、宮田一郎, 《漢語方言大詞典》(全5冊), 中華書局, 1996年。
- 《漢語拼音詞匯》編寫組, 《漢語拼音詞匯》(1989年重編本), 語文出版社, 1991年。
- 西周生, 《重訂醒世姻緣傳》(同德堂梓), 人民文學出版社影印本, 1987。
- 陳美芳, 《聊齋俚曲》語氣副詞研究, 華中師範大學, 漢語言文字學, 2015。
- 閔克, 南陽方言副詞“情”與“情管”, 寧夏大學學報(人文社會科學版)第三十五卷第三期, 2013.5。
- 劉冬青, 北京話副詞史(1750-1950), 《蘇州大學》, 2011年。

[謝辭]

本研究を進めるにあたり、ご指導を頂く植田教授に感謝致します。また、日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた研究室の皆様にも感謝致します。

[付録]

《醒世姻緣傳》に見える“情管”の用例

- 1: 路上冒了風寒。我叫人做些酸辣湯, 你吃他兩碗, 熱炕上發身汗出, 情管就好了。(2.1b.3)
- 2: 墊着看了脈, 說道: 這病比昨日減動六七分了。今日再一帖下去, 情管都好了。(2.11a.7)
- 3: 晁奉山媳婦說道: 我去尋本崇書來, 偕與珍姨送送, 情管就好了。一邊說, 一邊叫人往真武廟陳道士家借了一本崇書來到。(3.5a.2)

- 4：對門禹家去，請同禹明吾來吃午飯。禹明吾看着童山人道：老童，情管你的法靈了。(4.5b.7)
- 5：禹明吾又落後指着晁大舍笑道：這情管是小珍的手段，你平日雖是大鋪騰，也還到不的這們闊綽。(4.7a.3)
- 6：房內看了脈，說道：不要害怕沒帳得算，這是閉住惡路了。你情管我吃不完酒就叫他好一半，方顯手段。(4.12b.2)
- 7：俺爺說：小青梅這奴才慣替人家做牽頭，情管是個和尚妝就姑子來家。(12.13a.9)
- 8：你快把他的原物取出來，我叫人送還與他，你情管就好了。晁源一骨碌跳將下來，自己把那一包銀子，用力強提到晁夫... (17.3a.1)
- 9：知州從來使銀子上的。晁爺你不信，只叫大官人替唐老爺做上女婿，情管待不的兩日就是个知州。(18.3b.1)
- 10：就住到四不居鄰的去處，他望着塊石頭也騎拉騎拉。唐氏道：情管你那輩子就是這們个老婆。(19.5a.5)
- 11：晁無晏道：我一猜一個着，再沒有二話，情管是那幾畝墳地，叫偈眾人攤糧。(22.3a.9)
- 12：晁思才老婆跑將出來說道：你們不消胡猜亂猜的，情管是為你昨日賣了墳上的兩科柏樹，他知道了，叫了眾人去數落哩。(22.3b.6)
- 13：晁書娘子說道：觀其大婦諸般靈聖，情管來托夢叫奶奶知道。(30.11b.9)
- 14：晁鳳說：淳叔，你聽我說，你別合他一般見識。他紅了眼睛，情管就作下。(32.8b.3)
- 15：程樂宇說：也不是怕偈看他的破衣爛裳，情管屋裏有人正做着甚麼，偈去沖開了。你沒見他那顏色都黃黃的，待了半... (38.9b.7)
- 16：推心忙、推頭暈。狄周說：心忙頭暈，情管是餓困了。(38.12a.9)
- 17：我打和包雞子，你起來吃幾個，情管就好了。偈早到家，我聽說家裏叫下的步戲，城裏叫了三四个姐兒等待... (38.12a.10)
- 18：狄婆子指着孫蘭姬道：情管這就是那世裏的老婆。姑子說：不相幹。這個大姐，那輩子裏也是... (40.7b.8)
- 19：只是娘管的有正經。夜來北極廟上那个穿茄花色的婆娘，情管也是个會管教漢子的魔王。(41.1b.10)
- 20：狄周媳婦說：娘就沒看見麼。他在礮礮子上，朝東站着，那下邊請紙馬的情管是他漢子，穿着穰青布衫，羅帽子，草鑲鞋。(41.2a.3)
- 21：狄婆子說：我見來。那漢子情管是他兒。(41.2a.9)
- 22：情管只是漢子。狄婆子說：那漢子我沒看真。(41.2b.2)
- 23：狄婆子說：那漢子我沒看真，情管是个膿包。好漢子也依老婆降發麼。(41.2b.3)
- 24：南海北的沒影子。臨那斷氣，等不將他來，只見他極的眼象牛一般，情管待合他說甚麼，如今有點子東西，不知汝唆在那裏迷糊門了。(41.8a.7)
- 25：吃着碟子看着碗的罷了，這一个槽上，也拴的兩個叫驢麼。那賊狗頭情管抽了个頭兒去了。(43.7b.4)
- 26：婆子道：對着親家說不得的事。薛婆子取笑道：說不得的事，情管就不是好事。親家且吃酒，有事黑夜做就是了，不消預先的想。(44.4a.3)
- 27：來囑咐他，他必欲不依大的們說。你家裏那聲說聲應的，不是你來。情管是你爹不該教道那

- 二三更來。親家請便，待我打發他梳完頭出去。(45.4b.9)
- 28：說：這也就瑣碎少有的事。陳兒，你還往我屋裏睡去罷。他明日情管就合我熟化了。狄希陳仗着他娘的力量，還待要踢門。(45.7b.1)
- 29：我倒沒問小玉蘭哩。薛三省媳婦說：我來了這一會子，情管也梳上頭了，待我進屋裏去罷。(45.13a.10)
- 30：尋奶子這們緊，再有象這婆娘爽俐幹淨，又年小，又好奶，又不醜，情管奶的哥哥也標致。奶奶不要他，是嫌他怎麼。(49.7a.10)
- 31：叫狄周媳婦趕上攔阻他。不惟不肯回來，且說：你叫他休要扯淡，情管替他兒生不下私孩子。(56.6b.8)
- 32：這孩子到他手裏，不消一個月，打的象鬼似的；再待一個月，情管周了。(57.3a.7)
- 33：晁梁娘子道：俺那頭有極好的狗皮膏藥，要一帖來與他貼上，情管好了。(57.9a.8)
- 34：狄員外道：不消去，情管是往那裏做甚麼，順路訪訪你，好擾你的酒飯。要有甚麼要緊的事。(58.2a.7)
- 35：方叫那牛頭馬面一齊上前，套枷上肘，才得拿他到陰司受罪。情管那家子必定有一個人害眼疼的，這拿的就是他。(64.5a.6)
- 36：哄的我把話都說盡了，可是叫你見怪。這事也不一律，若是大嫂，情管沒帳。久聞的狄大嫂甚是賢德，孝順翁婆，愛敬丈夫，和睦鄉裏。(64.5b.3)
- 37：那牙巴骨瓜搭瓜搭的怪響。素姐看了他一眼，說道：了不得。這情管又是你這忘八羔子幹的營生。(64.9b.10)
- 38：他自正月十六日蓮花庵裏回來就合你鬧起，情管是那裏受的病根。你還到那裏仔細打聽。(65.2b.1)
- 39：我猜你這衣裳情管是放在張茂實家，我若要的大上緊，你一定就與了別人。(65.14b.5)
- 40：回回婆道：你拿了去，由他。這皮襖子是他的命，他出不去三日，情管就贖。我是恨他心狠，打脫了主顧，正合他為這個合氣哩。你聽着我說... (67.9a.3)
- 41：童奶奶道：這臘嘴養活了二三年，養活的好不熟化。情管在酒席上偏拉，叫老公知道，要的去。(70.8a.4)
- 42：等一總裏交，怕零碎放在手邊使了，先送了來與老公墊手兒使。他情管喜歡你。就還了他銀子，俗還合他結個相知，還叫他往後救偈頭疼腦熱... (71.2a.3)
- 43：童七道：奶奶去情管好。我近來運退了的人，說出句話來就濁殺人的，連自家過後也悔的慌... (71.2a.7)
- 44：媒婆說：這就不難。俺去說，情管就肯。(72.9a.4)
- 45：童奶奶道：這好，這好。這情管是李明宇家。他的娘子是我的妹妹哩。要是那裏，倒也來往方便。(75.5a.8)
- 46：李奶奶道：情管你也不守法度，一定在外邊養女掉婦的。童奶奶道：沒的家說。(75.7b.6)
- 47：狄大爺說的，情管就是寄姑娘。俺見童奶奶說得話撇撇的，揀人家，挑女婿的，俺倒沒理... (75.10b.6)
- 48：狄希陳道：你放心，做成了，情管叫你二位暖和。又叫呂祥：你收拾酒飯，給兩個媒媽媽子吃。(75.12b.6)

- 49：有，你也不消謝我；沒時，你也別要抱怨。劉振白道：你說去，情管有。我拇量着不好回我的。(80.5b.5)
- 50：單完道：怎麼幹不的。就請童奶奶做幕賓，情管做的風響。童奶奶請進去罷，有甚麼話，俺只合童奶奶商議，狄爺當个... (81.3a.6)
- 51：單完道：情管劉振白管了這造子事，狄爺合童奶奶沒致謝他致謝，所以才挑唆他告狀，這事再沒走滾。(81.9a.3)
- 52：你們在俺兩個身上，情管你們打上風官司，叫這狗骨頭吃場好虧。(81.9b.1)
- 53：趙啞子道：這位察院爺只喜人說實話，這上頭不大追求你。情管我這狀遞上去，只是叫他吃了虧就是。(81.13b.6)
- 54：陸好善道：這事情管有人挑唆。(82.2b.5)
- 55：這個，在那一個的頭上壘窩兒。他家沒有第二個丫頭，就是小珍珠，情管不知有甚麼撕撓帳，家反宅亂的把个丫頭吊殺了，怕僭笑話他，沒敢對... (82.3a.10)
- 56：寄姐道：渾是不象你，情管倒穿不了。狄希陳道：且別賭說。我見人上轎，都是臉朝外，倒退... (83.9a.4)
- 57：叫僭往那們遠去，自然送到僭地頭。你且放寬了心，等我替你算計，情管也算計不差甚麼。(83.14a.10)
- 58：我蹤着道兒尋着看他看，再那裏有影兒。大今子說：情管是你大嫂扯謊詐僭哩，別要理他。(85.8a.7)
- 59：狄周這翻江祭海的，擰成股子哄我，我還多啃他幾口。情管爺兒們新近持了臥單，教打夥子就穿靴。(86.4b.8)
- 60：口的黃兒驪，說了二十五兩。那經紀把呂祥看了兩眼，說道：這驪情管不是你的；不然，你怎麼說的都是沒捆的價錢。(88.4b.5)
- 61：我昨日遇着俺家裏人往淮上賣麵的，捎信到家去了，待不的一个月，情管就有人來。那時我有恩的報恩，有仇的報仇。(88.9b.8)
- 62：聽見，說道：這是狄家那个少鼻沒眼的老婆罵陳家哩。罵了陳家，情管就來我家門首嚷罵。(89.9a.1)
- 63：他罵了陳家，又罵僭家；他罵了僭，情管還罵杜其思合宮直家去哩。宮直合杜其思罷了，只怕宮直的老婆可不是... (89.9b.5)
- 64：我料着要是你自己，可你沒有聽差了話的。情管不知是那个混帳耳朵聽的不真，學的別了，叫你生氣。不論有這話沒這... (96.12a.4)
- 65：寄姐道：這情管是个清江引。你照着清江引的字兒，你就念成句了。(97.6a.7)

Research of QING GUAN in *Xingshi Yinyuan Zhuan* and Modern Chinese

Shi Liangliang

Xingshi Yinyuan Zhuan is the most representative vernacular novel in the north in the early Qing Dynasty. This study focuses on the research of the term QING GUAN in this book.

In Ming and Qing Dynasties, QING GUAN was defined as “Sure, Certain”, but as time goes on, its meaning is changing. So now, in Modern Chinese, the meaning “Although” of QING GUAN is known by people very well. However, is there any connection between them?

On the other hand, in the dialect of Ganyu County in Lianyungang province, the hometown of the author, QING GUAN not only means “Although”, but also means “All the time, always, often”, which is also the supplement for QING GUAN’s meanings in the Modern Chinese.

This paper firstly studies the usage and meanings of QING GUAN in *Xingshi Yinyuan Zhuan* and Modern Chinese and then explores its differences of language sense. Later, the using status of QING GUAN in *Xingshi Yinyuan Zhuan* and Modern Chinese is investigated so as to further clarify the connection of the two QING GUANs in *Xingshi Yinyuan Zhuan* and Modern Chinese. Besides, the later chapter mainly introduces the specific using status of QING GUAN in the dialect of Ganyu County, Lianyungang province, hometown of author.